

世界の諸地域の「主題」の設定について

北アメリカ州 主題: 巨大な産業と経済

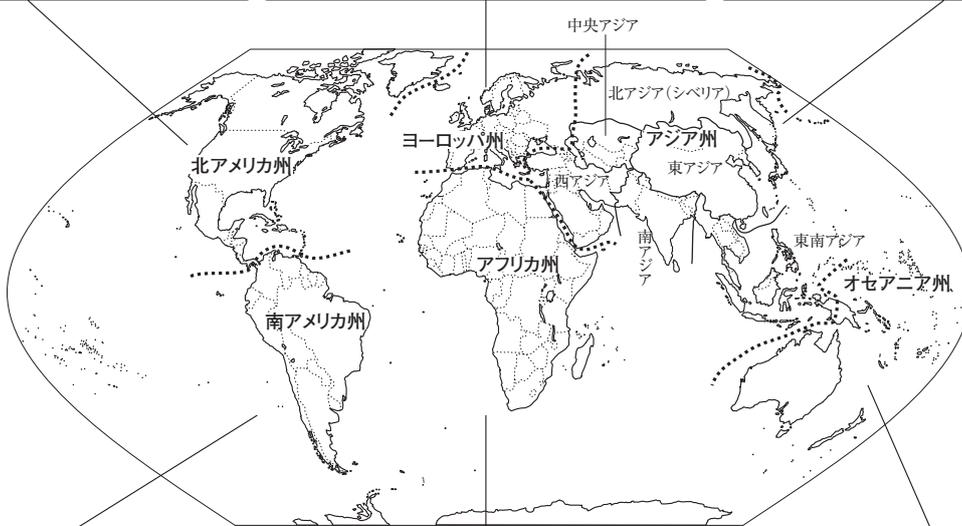
先住民と世界各地からやってきた多くの移民によって形成された多民族・多文化社会が特色である。アメリカ合衆国を中心に、合理化された産業や経済、文化が世界に対して大きな影響力を及ぼしていることを取り上げたい。学習テーマとしては、北極圏から熱帯にまで広がる自然環境、合理化された農業（大規模、適地適作）、「世界の食料庫」としての農産物輸出、巨大な工業生産と最先端の科学技術、グローバル化するアメリカ生まれの文化などが挙げられる。

ヨーロッパ州 主題: 国々の結びつき

近代化の歴史と国家規模を踏まえ、「なぜヨーロッパでは国家間の結びつきが強まっているのか」について考えさせたい。多数の国家が存在する一方で文化的共通性（民族・文化）があること、それが結びつきにつながっていることをとらえさせたい。学習テーマとしては、ヨーロッパの位置と自然条件、近代化と工業化、ヨーロッパ連合の成り立ち、持続可能な社会づくり、広大な国土をもつロシア連邦（ソ連の成立とEU諸国との結びつき）などが挙げられる。

アジア州 主題: 多様な経済発展

人口増加や経済発展などについて、アジア州全体を俯瞰的に見て共通性や傾向性を見出し、アジア州の特色をとらえることを着地点にしたい。実際には、広大な地域を扱うため、アジア州内をさらに小地域に区分したり、特定の国家単位で取り上げたりするなどの工夫が必要となる。学習テーマとしては、モンスーンと稲作、巨大な人口と多様な民族（中国、インドなど）、プランテーション農業とその変化、偏在する石油資源、宗教の多様性などが挙げられる。



南アメリカ州 主題: 開発と環境

北アメリカ州と同様に、移民や奴隷貿易によって複雑な住民構成がみられる、多文化社会に特色がある。ラテン系の文化が共通してみられること、不安定な経済・政治の状況などにも関心を向けさせたい。学習テーマとしては、多様な民族からなる社会、アマゾン川流域の熱帯林開発と環境破壊、プランテーション農業の影響と鉱産資源に頼るモノカルチャー経済、日系移民の流入の歴史、都市化の進展と都市問題などが挙げられる。

アフリカ州 主題: 人々の暮らしの変化

直前に学習したヨーロッパ州の学習を生かして、歴史的背景からみた近代化の遅れやグローバル経済の負の側面などについて、アフリカ州の多くの地域で共通する特色を考えさせたい。また、「北アフリカ」と「サハラ以南のアフリカ」に区分し、そこに現れる共通性と異質性について学習させたい。学習テーマとしては、奴隷貿易や植民地支配、グローバル化の負の側面を強いられる経済の構造、都市化とそれに付随する問題が挙げられる。

オセアニア州 主題: 他地域との結びつき

植民地化の歴史と先住民の暮らし、各地からの移民の流入、白豪主義から多文化共存への移行について関心をもち、学習を深めていきたい。イメージとして「楽園」「海外旅行先」などが浮かぶこの地域について、その実態に迫ってきたい。学習テーマとしては、オーストラリアやニュージーランドの歴史と先住民の暮らし、海洋と島々からなる自然環境、ヨーロッパからアジア・環太平洋へとシフトする貿易、観光産業の進展と日本との関係などが挙げられる。

1 地域区分について

『学習指導要領解説』では、「基礎的・基本的な知識を定着させるという観点、また汎用性が高いという観点から」、大州区分（アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア）を指定している。一般に、地域区分それ自体は便宜的なものにすぎない。しかし、子どもたちが初めて世界地理を学ぶ単位であることを踏まえると、地域区分も知識として定着させる必要があるだろう。地域区分の方法は、その目的や解釈が分かれるため絶対的なものではない。本ワークシートでも、学習指導要領にしたがい、自然環境による大州区分を採用した。

さらに、学習指導要領解説では、各州の地域的特色を明らかにするため、州を細分したり、州を越えた地域を設定したりして、各地域の特色を理解する学習を展開してもよいとしている。

2 各州の「主題」について

追究する「主題」の設定については、『学習指導要領解説』に各州の主題例が紹介されている。詳しくは、本ワークシート各州の冒頭「学習指導要領解説の抜粋」を参照されたい。これらを踏まえ、また、これまでの地理学習の実践を踏まえ、本ワークシートでは上の図の通り主題を設定した。各ワークシートには、子どもたちの既得知識と学習の便宜に配慮して文章記述を必要とする問いを配置したが、紙面の制約もあり、地域の理解には十分なものではない。実際の指導では、地図帳をはじめ、その他さまざまな統計類や資料集、百科事典、新聞記事、インターネットなどを積極的に参照させたい。その前提として、指導する側の教師自身が世界に対する関心を高め、歴史的分野・公民的分野との連携を図りつつ、各地の情勢や現代世界に対する認識を深めておく必要があることはいうまでもない。